



Real Voice

## 栗飯原 志宣 先生（日本語教育）

日越大学修士プログラム開設時（2016年）から2024年3月まで日本語教育プログラム（JLE）の教員専門家として活躍された栗飯原志宣先生から、JLEの強みや学生達に向けた学習アドバイスについてお話をお伺いしました。



栗飯原志宣先生

### 日越大学 JLE の特色、強みについて教えてください。

日越大学 JLE では、アーティキュレーション（全ての学生が、その日本語能力に応じて、適切なレベルの日本語教育を受けられる）システムがあることが一番の強みです。ベトナム国内で、このシステムを実践できている大学は日越大学だけで、本校の誇れる教育システムであります。このシステムを継続するには JLE の講師、学部日本学プログラムの教職員、そして学務の理解が伴って、初めて継続できます。これからもこのシステムが維持できるように日越大学全体で努力頂くことを願っています。

### 先生が大切にしてきた信念はどのようなものですか。

着任後、ベトナムでの仕事の進め方が日本や他国とは異なることに気がつきました。ベトナムでの活動にとっても悩んだ時、当時、JICA 専門家として派遣されていたベトナム人同僚



から「先生は日本のやり方を 200%主張し続けてください。そうすれば 50%、50%（fifty-fifty）になります。」という助言を頂きました。初めは驚いたのですが、それを信念に8年弱貫いてきました。今の JLE に日本の要素が 50%反映されたかどうかは、皆様のご判断を請いたいです。

日越大学でやりとげたことを教えてください。実現しつつあるものとして、レベル別のコーディネーター制があげられます。各レベルに常勤講師を主担当、JICA 専門家をサポートに配置し、各レベルに関わる全てを責任持って管理運営するもので、現場運営の技術移転を目指しました。当初、常勤講師から負担が多すぎるという反対意見もありましたが、今は皆さん「私のレベル」として愛情を持って努めてくださっています。達成に至る背景には専門家の皆さんの大きなサポートがあったことも忘れることはできません。



修士課程地域研究（日本研究）の学生たちと栗飯原先生

### 学生達に向けて日本語学習へのアドバイスをお願いします。

やれば+（プラス）、やらねば-（マイナス）、継続は力なり。x を日数とすると、毎日、昨日より 0.3%サボり続けると  $(1.03)^x$  で後退する。毎日、昨日より 0.3%多く頑張る続けると  $(1.03)^x$  で成長する。これを習慣化しよう。でも、努力しても成功しないことはある。

そんな時はチャンス。努力した自分を褒めつつ、結果の内省をしよう。それが、次の大きな成功を導く!!